



東京芸術祭 2018

2018 年秋 開催

「東京芸術祭」は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会、さらにはその先まで東京に世界から人が集まり、東京の魅力を満喫できることを目指す芸術祭として、2016 年にスタートしました。

2018 年から 2020 年まで、東京芸術祭総合ディレクターとして宮城聡氏（演出家/東京芸術祭 APAF-アジア舞台芸術人材育成部門プロデューサー/SPAC-静岡県舞台芸術センター 芸術総監督）が就任し(2017 年 3 月発表)、2018 年から、宮城総合ディレクターと「プランニングチーム」のメンバーが協働し展開いたします。前年同様にフェスティバル/トーキョー、芸劇オータムセレクション、としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、APAF-アジア舞台芸術人材育成部門などを据えながら総合ディレクター直轄プログラムなど、一層幅広いプログラムで実施する予定です。

また、東京芸術祭 2018 の目玉プログラムとして、イタリアを代表する演出家 ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ氏による『野外劇 三文オペラ』（会場：池袋西口公園）の上演も予定しております。本プログラムは 12 月に出演者オーディションを行います。

tokyo-festival.jp

▶ 本リリースに関するお問い合わせ

アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団） 広報担当：森（隆）、圓城寺
Tel：03-6256-8432 E-mail：press@artscouncil-tokyo.jp

▶ 東京芸術祭に関するお問い合わせ

東京芸術祭組織委員会事務局
Tel：03-6388-0119 Fax：03-3478-7218 E-mail：info@tokyo-festival.jp

東京芸術祭 2018 の開催に向けて

東京芸術祭は、芸術文化によって東京の活力を高め、社会の仕組みを考え直す契機とするとともに、多様な芸術文化を集結して東京の魅力の世界に浸透させていくことを目指して、東京都が開催を提案した。池袋を拠点に、舞台芸術分野で既に実績のある事業を中核にして、2016年に始めた。

2018年には、総合ディレクターに選任された宮城聡氏を中心として、活発な意見交換と情報共有により芸術祭の企画を担うプランニングチームを設けることにより、東京芸術祭の展開方針に従った多様なプログラム構成を持ち、国内外に個性を主張できる新たな芸術祭として本格的に始動させることとした。

東京芸術祭の開催を通して、芸術文化が人々にとって成長の礎であり心の糧となることに気づくことが大きな意義である。これまで以上に多くの芸術文化関係者が集い、より多くの人達に届くことを願っている。

アーツカウンシル東京 機構長 三好勝則

東京芸術祭 総合ディレクター（2018年～2020年）就任にあたって

（2017年3月29日発表）

ここ2、3年の世界の状況が、1930年代と似ていると感じざるを得なくなってきた。いわゆる「分断」、社会の“裂け目”が露呈するようになり、世の中の過半のひとが、何か「割りを食っている」という疎外感を覚えているように思う。そして同時に「どこかに得をしている連中が居るはずだ」と、憎悪の対象を探している。これは1930年代のドイツの状況に似ている。そして当時のドイツでは、意外にも公立劇場が「得をしている連中＝既得権の側」にいと見なされていたのだが、現在の東京の演劇界も、それと同じような状況なのではないかと危惧している。

「分断」の中身は、しばらく前までは、豊かな国と貧しい国、搾取している国とされている国、経済植民地になっている国とされている国、という南北問題に帰趨される対立であったが、最近ではひとつの国の中、比較的先進国と言われていた国の中に分断がある。

そんな現代の東京でどのような芸術祭が成り立つのか。どういう役割を果たせるのか。これまでと違うアプローチが必要だろう。そのためには「国内」「国際」「地域」の面から考え、光を当てていきたい。

1つ目は、困いがなく外からも覗くことができる場所で超一流のクオリティをもった作品を上演し、人が集まる場をつくること。2つ目は、かつてのパリやニューヨークのようにアジアの若い人たちが東京に行ってみたいと思うような発信をすること。そして3つ目は、東京と地域の連携を考えるということ。2020年の東京オリンピックが東京の一極集中を加速させることにならないよう、芸術ができることを考えていきたい。

東京芸術祭 総合ディレクター 宮城聡



撮影：新良太

宮城 聡（みやぎ・さとし）

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、「世界を見る窓」としての劇場づくりを注いでいる。2014年7月アヴィニョン演劇祭から招聘された『マハーバーラタ』の成功を受け、2017年『アンティゴネ』を同演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『王女メデア』『ペール・ギュント』など。2006年よりAPAF(アジア舞台芸術祭)プロデューサーをつとめる。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。

東京芸術祭

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭です。東京の芸術文化の魅力を分かり易く見せると同時に東京における芸術文化の創造力を高めることを目指しています。また、中長期的には社会課題の解決や人づくり、都市づくり、そしてグローバル化への対応を視野にいれて取り組んでいきます。

■東京芸術祭 2018

2018（平成30）年 秋開催

会場：東京芸術劇場、あうるすぽっと（豊島区立舞台芸術交流センター）、池袋西口公園 ほか、豊島区池袋を中心に開催

プランニングチーム (順不同)

東京芸術祭は、2018 年から宮城総合ディレクターと「プランニングチーム」のメンバーが協働し展開いたします。
「プランニングチーム」メンバーの内、下記の 5 名を発表いたします。

■直轄事業ディレクター 横山義志 (よこやま・よしじ)



1977 年千葉市生まれ。中学・高校・大学と東京に通学。2000 年に渡仏し、2008 年にパリ第 10 大学演劇科で博士号を取得。専門は西洋演技理論史。2007 年から SPAC-静岡県舞台芸術センター制作部、2009 年から同文芸部に勤務。主に海外招聘プログラムを担当し、二十数カ国を視察。2016 年、アジア・センター・フェロシップにより東南アジア三カ国視察ののち、アジア・カルチュラル・カウンシル (ACC) グランティーとしてニューヨークに滞在し、アジアの同時代的舞台芸術について考える。学習院大学・静岡県立大学非常勤講師。論文に「アリストテレスの演技論 非音楽劇の理論的起源」、翻訳にジョエル・ボムラ『時の商人』など。舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM) 理事、政策提言調査室担当。

■芸劇オータムセレクションディレクター 内藤美奈子 (ないとう・みなこ) - 東京芸術劇場 制作担当課長



プロデューサー。東京大学文学部卒業。1985 年よりパルコ劇場にて、1998 年よりホリプロ・ファクトリーにて、2010 年より東京芸術劇場にて、演劇・ダンス・ミュージカル・海外公演・国際共同制作等の企画制作、海外公演の招聘などに従事。
<主な作品>【演劇】「おのれナポレオン」(三谷幸喜作・演出)、「リチャード三世」(シルビウ・ブルカレーテ演出)【朗読】「ラヴ・レターズ」(青井陽治演出)、ミュージカル「ファンタスティックス」(宮本亜門演出)【海外公演】「THE BEE English Version」(野田秀樹作・演出)世界 10 都市ツアー【国際共同制作】「トロイアの女たち」(蜷川幸雄演出/東京芸術劇場・テルアビブ カメリ劇場共同制作)【招聘公演】「タデウシュ・カントール&Cricot2“くたばれ芸術家”“私は二度と戻らない”」、ブロードウェイ・ミュージカル「CHICAGO」、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー

■としま国際アート・カルチャー都市発信プログラムディレクター 根本晴美 (ねもと・はるみ)

- あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)制作統括 チーフプロデューサー



大学卒業後、劇団四季に社員として入社。翌年ニューヨーク大学大学院パフォーマンススタディ専攻へ留学。帰国後は、こどもの城に併設されていた青山劇場・青山円形劇場運営部に入社し、演劇・舞踊や子どものための舞台芸術の企画制作、またローザンヌ舞踊コンクール東京開催事務局、海外共同制作ミュージカルの制作などに携わる。出産・子育てを経て、1996 年世田谷パブリックシアター開設準備室に入室。日本初の創造発信型公共劇場のプロデューサーとして、演劇、ダンス、子どもプロジェクト、ワークショップを開催、地方公共劇場との連携事業などを開館から 19 年間手掛け、劇場のステイタスの確立に貢献。2016 年 4 月より現職。

■としま国際アート・カルチャー都市発信プログラムディレクター 杉田隼人 (すぎた・はやと)

- 公益財団法人としま未来文化財団 みらい文化課 プランセクション事業企画担当



民間企業、公立ホール、ヨコハマトリエンナーレ事務局等での制作を経て、2012 年よりとしま未来文化財団に在職。現在までに「としま能の会」「民俗芸能 in としま」「ジュニア・アーツ・アカデミー狂言コース」「伝統芸能 in 自由学園明日館『獅子の祝祭』」などを担当。2016 年東京芸術祭参加作品「大田楽 いけぶくろ絵巻」を企画制作。南池袋公園を中心に、池袋の街中で上演、コスプレイヤーとのコラボレーションも話題となった。伝統芸能分野における新たな観客層の創出に努めている。

■APAF ディレクター 多田淳之介 (ただ・じゅんのすけ) - 演出家



(Photo やじまえり)

1976 年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品までアクチュアルに作品を立ち上げる。「地域密着、拠点日本」を標榜し、全国地域の劇場・芸術家との地域での芸術プログラムの開発・実践や演劇を専門としない人との創作、ワークショップも積極的に行い、演劇の持つ対話力・協働力を広く伝える。海外共同製作も数多く手がけ、特に韓国、東南アジアとの共作は多い。主宰する東京デスロックは 2009 年以降東京公演を休止。2013 年に東京復帰公演を行うも現在は 2020 年東京オリンピック終了まで再休止している。2014 年韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。2010 年キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内史上最年少で就任。高松市アートディレクター。四国学院大学非常勤講師。セゾン文化財団シニアフェロー対象アーティスト。

■フェスティバル/トーキョーディレクター ※年度末までに開かれるフェスティバル/トーキョー実行委員会において決定後、発表。

東京芸術祭 2018 プログラム

『 野外劇 三文オペラ 』

作：ベルトルト・ブレヒト 音楽：クルト・ヴァイル 訳：大岡淳
演出：ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ

東京芸術祭 2018 では、イタリアを代表する演出家ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ氏による音楽劇、『野外劇 三文オペラ』を池袋西口公園にて上演いたします。

■ 公演概要

『野外劇 三文オペラ』

作：ベルトルト・ブレヒト 音楽：クルト・ヴァイル 訳：大岡淳

演出：ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ 総合ディレクター：宮城聡（演出家、SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督）

◎日程 2018 年 10 月（予定）[東京芸術祭 2018 会期中]

◎会場 池袋西口公園（予定）

■ 東京芸術祭 総合ディレクター 宮城聡より

いまの東京には、「劇場に行く楽しみを知っている人」と「それを一切知らない人」の2種類の人々がいます。

人数から見ると、前者は後者よりずっと少数です。もちろん、劇場にはキャパシティの限界がありますから、電波やネットのようにいちどに数万もの人が見ることはできません。なので少数であること自体は当然で、劇場に出来ない人たちも「劇場という場所ではなにか面白いことが起こっているらしい」という興味を持ってきている状態ならばそれは心配に及ばないでしょう。

しかしいまの東京では、前者の人々と後者の人々のあいだに深い溝ができています。ふたつのグループはくっきりと分かれてしまっ、前者のメンバーは固定化しつつあります。

こういう状況で劇場にたくさんの観客を呼ぼうとすれば、テレビの人気者に出演してもらうしかなくなります。人気者たちはさすがの名演を見せてくれることもあります、チケット代は高くなります。高くなっても売れることがわかると、もう安くはならないものです。こうして前者と後者の溝はますます深くなるばかりです。

そこで東京芸術祭 2018 では、このスパイラルに抗う一撃を企画しました。それがこの『野外劇 三文オペラ』です。

まず、劇場を飛び出し、池袋西口公園で、困いさえ作らずに上演します。チケット代は「三文」、というわけにはいきませんが、ワンコインにします。遠巻きに眺めるぶんにはタダです。そういう方々に音だけでも楽しんでもらえるよう、音楽劇を選びました。途中から観ても良いし、途中で立ち去ってもかまいません。

ただし、クオリティは一流でなければ意味がありません。「敷居が下がったぶん、クオリティも下がった」となるとは、演劇とは面白くないもの、という先入観を払げる役にしか立ちません。

演出家は、手練れ中の手練れ、G・B・コルセッティ氏を招くことにしました。氏が日本人俳優を演出するのは初めてです。出演者は全員、ネームバリューや人脈を顧慮しない、実力本位のオーディションでコルセッティ氏本人が選びます。稽古期間もじゅうにぶん確保して、熟達の演出家が思うさま腕をふるった芝居がいかに楽しいものかを存分に味わっていただけるようにと考えております。

ぜひ、東京芸術祭 2018『野外劇 三文オペラ』にご注目ください。

■ 演出 ジョルジオ・バルベリオ・コルセッティ (Giorgio Barberio Corsetti)



現代イタリア演劇を代表する演出家の一人。1951 年ローマ生まれ。1976 年にベネチア・ビエンナーレで映像を交えた新たな劇言語を提示し、話題を呼ぶ。1988 年からカフカ四部作を上演し、『アメリカ』では毎日異なる道歩く俳優たちのあとを観客が追っていく形式を試みる。1994 年、「ヨーロッパ演劇の新たなリアリティ」賞受賞。1999 年、ベネチア・ビエンナーレ演劇部門の芸術監督に就任し、サーカス作品にも門戸を開く。2001 年、カフカにちなんで自らの劇団を「ファットーレ・K」と名づける。2012 年コメディ＝フランセーズで初演出。2014 年、アヴィニョン演劇祭開幕演目として法王庁中庭で『ホンブルクの公子』を演出。オペラ演出も数多く手がけ、ミラノ・スカラ座では『トゥーランドット』等を演出。

日本では、ラフォーレミュージアム赤坂にて、1991 年『ラ・カメラ・アストラッタ／抽象の部屋』、1992 年『ある戦いの描写 カフカの作品より』を上演。また、SCOT サマー・シーズン 2008 にて『ロナルド・マクドナルドの物語』、SCOT サマー・シーズン 2009 にて『天と地のはざま』を上演したほか、2016 年には東京文化会館で上演されたゲルギエフ指揮によるマリインスキー・オペラ『ドン・カルロ』を演出。

■ 出演者オーディション開催

東京芸術祭 2018『野外劇 三文オペラ』は全出演者をオーディションで決定いたします。つきましては、下記の通りオーディションを実施いたします。

エントリー受付期間 2017年11月30日(木)～2017年12月10日(日)【必着】

◎ 応募条件

- ・2018年4月1日時点で18歳以上の男女。
 - ・12月下旬の二次選考に参加できること(日程等は下記を参照のこと)。
 - ・稽古～本番期間に責任をもって参加できること。
 - ・国籍不問(ただし、相応の日本語能力を必要とする)。
 - ・演劇、ダンス等、舞台芸術の経験者(演出家に指示される内容を記憶し実践する身体能力を有すること)。
 - ・『三文オペラ』中の楽曲が歌えるレベルの歌唱能力(日本語)があること。
- ※劇団、事務所等のご所属がある場合は、出演の了承を予めご確認ください。

◎ 待遇 謝礼あり(出演料) ※本オーディションの参加に関しての謝礼や交通費の支給はありません。

◎ 選考方法

1. 一次選考 【書類審査】

下記の応募方法にもとづき、必要事項をご提出ください。合否いずれの場合も、選考結果を12月15日(金)までにメールにてご連絡いたします。12月15日(金)を過ぎてもメールが届かない場合は、事務局にお問い合わせください。

2. 二次選考 【実技審査(ワークショップ形式)】

日程：2017年12月23日(土)～12月29日(金) 会場：東京芸術劇場

※全日参加が不可の場合は、下記の応募方法内、「項目9」のとおり応募の際にその旨を明記してください。

◎ 応募方法

以下の必要事項をエントリーシートに記入し、下記宛先までお送りください。(メールでの応募不可)

- 1.氏名(ふりがな) 2.氏名のローマ字、アルファベット表記 3.生年月日と年齢 4.住所(郵便番号)
- 5.日中連絡のつく電話番号 6.メールアドレス 7.ご所属 8.身長、体重
- 9.二次選考について参加不可な日程、時間帯(あれば)
- 10.応募者の写真2種(①顔写真(正面からのもの)②全身写真 / 直接貼付する場合は、裏面に名前を記載してください)
- 11.舞台経験(なるべく詳しくご記入ください) 12.特技 13.志望動機(400字程度)

※1～2は、芸名の場合、本名も併せてご記入ください。 ※選考結果はメールのみでご連絡いたします。東京芸術祭『野外劇 三文オペラ』オーディション係からのメール(tf2018audition@gmail.com)が受信できるメールアドレスを必ずお書きください。

・エントリーシート

東京芸術祭公式 Web サイト (<http://tokyo-festival.jp/news/1332/>) より、ダウンロードしてください(A4用紙2枚/Word・PDF)。

※ページ数が変わらないようご注意ください。 ※必ずA4サイズ2枚(片面印刷)で提出してください。

◎ 応募送付先

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-18-27 トルネード203 東京芸術祭『野外劇 三文オペラ』オーディション係

※お送りいただきました個人情報は、オーディションの選考のほか、出演者としての参加または本事業に関連する連絡、および主催者の業務改善のための内部利用を目的として利用することがあります。 ※お送りいただいたエントリーシートは返却いたしません。

◎ 2018年稽古スケジュール(予定)

稽古開始：2018年8月初旬 会場：東京都内 ※詳細なスケジュール、会場は合格者の方に追ってご連絡、調整いたします。

[出演者募集についてのお問い合わせ先]

東京芸術祭『野外劇 三文オペラ』オーディション係

E-mail：tf2018audition@gmail.com Tel：070-3838-4799(平日10時-18時) Fax：03-4333-0878

東京芸術祭 2018 (英称 : Tokyo Festival 2018) — 2018 年秋 開催

公式ウェブサイト	http://tokyo-festival.jp/
Facebook	@tokyofestivalsince2016
Twitter	@tokyo_festival
Instagram	@tokyo_festival
LINE	@tokyo-festival

| 報道関係お問い合わせ先

本プレスリリース掲載のテキストデータ、掲載画像などは、下記 URL よりダウンロードいただけます。
東京芸術祭や『三文オペラ』に関する情報、また画像をご掲載いただく際には、下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

▶ **ダウンロード URL** <http://tokyo-festival.jp/news/1321> (東京芸術祭 Web サイト)

▶ **本リリースに関するお問い合わせ**

アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団) 広報担当：森 (隆)、圓城寺
Tel : 03-6256-8432 E-mail : press@artscouncil-tokyo.jp

▶ **東京芸術祭に関するお問い合わせ**

東京芸術祭組織委員会事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1 国立能楽堂内 公益社団法人 国際演劇協会日本センター気付
Tel : 03-6388-0119 Fax : 03-3478-7218 E-mail : info@tokyo-festival.jp